

平成 23 年度 第 1 回滋賀県がん診療連携協議会 議事概要

日時：平成 23 年 11 月 4 日（金）午後 4 時～午後 5 時 30 分

場所：草津市立市民交流プラザ 大会議室

【協議会構成員】

笹田会長（成人病センター総長）、柏木副会長（滋賀医科大学医学部附属病院病院長）、
廣瀬副会長（大津赤十字病院病院長）、富永会員（公立甲賀病院病院長）、
赤松会員（彦根市立病院病院長）、野田会員（市立長浜病院病院長）、笠原会員（滋賀県医師会会長）、
増田会員（滋賀県薬剤師会会長）、井下会員（滋賀県看護協会会長）、
小川会員（滋賀県放射線技師会会長）、吉田会員（滋賀県臨床検査技師会会長）、
菊井会員（滋賀県がん患者団体連絡協議会会長）、藤内会員（滋賀県がん患者団体連絡協議会副会長）
角野技監（滋賀県健康福祉部）※代理
鈴木会員（協議会企画運営委員会委員長、相談支援部会部会長、成人病センター副院長）

【欠席】

渡邊会員（滋賀県健康福祉部部長）

【オブザーバー】

国立がん研究センターがん対策情報センター副センター長 若尾 文彦

【事務局】

成人病センター川上副院長（がん登録部会部会長）、成人病センター堀科長（緩和ケア推進部会部会長）、
地域医療サービス室田中参事、医療情報室田中参事、経営企画室藪内副参事、沼波主査、谷本主任主事

1. 滋賀県がん診療連携協議会の各部会等の取組状況および今後の予定について

（相談支援部会、緩和ケア推進部会、がん登録推進部会、地域連携部会、診療支援部会、研修調整部会）

- ・各部会事務局から以下のとおり取組状況および今後の予定の報告がなされた。

（相談支援部会事務局）

- ・「がん相談 Q&A」の内容更新、がん相談支援事例検討会を行う。
- ・がん患者サロンが公立甲賀病院および高島地域でも開催されることになった。
- ・がんのセカンドオピニオン提示体、実施状況調査を行う。拠点病院におけるセカンドオピニオン外来病院別利用状況は、22 年度は 117 件、本年 9 月までの上半期で 81 件である。
- ・地域の療養情報、滋賀県版を作成することを確認した。
- ・インフォームドコンセント実態調査を滋賀県が滋賀医科大学に委託して行う。

（がん患者団体連絡協議会）

- ・ピアサポーター養成講座は今年度 3 期目が終了した。3 期のピアサポーターを公募したところ 37 名の応募があり、24 名の方が修了した。今現在の 54 名のピアサポーターががん患者サロンで活動することになっている。
- ・がん体験集を協議会がまとめて発行する。

(緩和ケア推進部会事務局)

- ・ 医師等対象緩和ケア研修の 22 年度末の修了者は医師 372 名、コメディカル 41 名であった。来年度に向けて、研修内容等の見直し検討会を行うことを確認した。
- ・ 看護師対象緩和ケア研修を 9 月 5 日から 8 日にかけて行い、成人病センターと彦根市立病院で病棟実習を行った。参加者は 5 名であった。
- ・ 例年開催していた「世界ホスピスデー記念県民公開講座」が諸般の事情により開催が難しくなったため 10 月 3 日から 7 日にかけて、成人病センター新館 1 階外来ロビーにおいてパネルの展示等を行った。
- ・ 緩和ケア外来に関する研修会を来年度実施する。

(がん登録推進部会事務局)

- ・ 第 1 回実務相談会を市立長浜病院で行い、県内の拠点病院、支援病院等から参加者が 20 名あった。
- ・ 第 1 回目実務研修会を 10 月 24 日に滋賀医科大学附属病院で開催し、京都の病院から実務者も来ていただき、参加者は 39 名であった。
- ・ 2008 年の診断データは拠点病院 4 病院からの提出であり、がん登録数は 2795 件、2009 年は 6 病院で 4632 件であった。地域がん登録の届け出数は、2009 年 6813 で、2008 年の拠点病院の院内がん登録の地域がん登録の件数に占める割合は 46 パーセント、2009 年は 70%であり、かなりの患者さんが拠点病院での診療を受けているという実態である。
- ・ 地域がん登録も 2006 年 2400、2007 年 4000、2008 年からは 5900、6800 とかなりの件数になっており、精度も上がっている。
- ・ 院内がん登録については、出されたデータについて部位別の病期別件数、各医療機関のがん治療実績把握等、今後このデータを利用して各病院に実態をお知らせすることを予定している。

(地域連携部会事務局)

- ・ 11 月 2 日現在の地域連携パスの登録状況であるが、トータルで 123 件で、前回 3 月 31 日の 55 例から半年の間でかなり増加している。分析すると活発な拠点病院が順調に数を伸ばしていることに加えて、滋賀医科大学附属病院が数を増やしている。注目されるのは、湖北診療圏であり、市立長浜病院、支援病院の長浜赤十字病院の件数が非常に注目される。がん種別では胃大腸が大多数を占めている。
- ・ 胃がん・大腸がん進期パス、肝がんの内科パスの作成、肺がんパスの見直しを行い、年内の承認を目指している。
- ・ 診療報酬の算定が難しいケースがあるため、医師会の先生方にお願ひし、県内でネットワークをつくり、まとめて厚生局に書類提出するという方策を考えている。
- ・ 「私のカルテ」のパンフレットを用いて県民向けに広報を行う。

(診療支援部会事務局)

- ・ 第 1 回部会で看護協会から、がんに関する認定看護師等で相談窓口を設けて、県内のがん診療に携わる看護師からの相談と情報交換の窓口をつくることを検討しているという報告があった。
- ・ 医師派遣実績調査については、4 月から 6 月の期間内における拠点病院の調査を行った。また、各拠点病院で行っている高度な医療を調査し、がん診療連携協議会のホームページにも掲載する予定である。

る。

(研修調整部会事務局)

- ・第1回部会では研修会受講の評価システムを具体的にどうするか検討を行った。
- ・国立がん研究センター研修の各病院の受講状況の調査を行い、部会で県内の状況を検討する。
- ・議会のホームページに掲載している講演会等開催予定情報についてはリアルタイムに反映しないということが課題である。

<質疑等>

- ・患者サロンのピアサポーターはまだ数が十分でないので充足に向けて協議会でも取り組むこととなった。
- ・がん登録について、各病院で専門の人材の確保・養成に取り組むことが必要であるとされた。
- ・地域連携パスについて、診療報酬を算定できなくてもまず連携を促進することが重要であるという意見や、運用促進には地域の医療機関と拠点病院が連携を深めていくことが重要であるという意見が出された。

2. 平成23年滋賀県がん対策推進協議会の開催結果について

- ・県健康福祉部から平成23年滋賀県がん対策推進協議会の開催結果について報告があった。

3. 滋賀県がん医療フォーラムについて

- ・企画運営委員長から、1月29日に開催される滋賀県がん医療フォーラムについて説明があった。

4. その他

- ・医師会から、緩和ケア研修に診療所の方も参加していただくべく、修了人数の目標値を出して欲しい旨の意見が出された。
- ・薬剤師会から、在宅ホスピス薬剤師の養成を行っている旨の報告があった。
- ・企画運営委員長から、在宅がん診療についても取り組んでいきたいとされた。
- ・滋賀県がん患者団体連絡協議会から、がん診療連携拠点病院からがん診療連携支援病院に情報の提供を行って欲しい旨の意見が出された。